

わたしたちが運ぶのは未来です

運輸省

みなと しみず

発行所

第五港湾建設局
清水港工事事務所

〒424 静岡県清水市日の出町7番2号
TEL 清水 <0543>52-4146(代)



清水港工事事務所職員 (1995. 1. 4)

新しい年を迎えて

所長 高松 亨

新年、明けましておめでとう
ございます。

本年も職員一同職務に励み清水、御前崎、下田各港の整備、さらには静岡県並びに県下各地域の活性化に取り組んで参る所存ですので、関係各位の御指導、御鞭撻を賜りますようお願いいたします。

さて、本年は亥年になります。十二支の最後に位置づけられ、方位で言うと北から西へ30度の方向。時刻で言うと午後10時頃とのことです。12年を一サイクルとする最終の年と理解したいと思えます。12年のサイクルが正しいのかはともかく、この10年程は85年のプラザ合意以降史上最高値を記録した円高、バブル経済の膨脹と破裂、東西の冷戦構造と我が国の55年体制の終焉等々まさに激動する期間だったように思えます。しかし昨年後半からの景気回復の兆しに見られるように、この激動も徐々に安定軌道に乗っているように見えます。本年が激動を終息させ、次の安定的発展に向けて希望の持てる年となることを祈りたいと思えます。

港湾の分野でも、この激動

のあおりを受けて苦しい状態が続いています。年末の予算編成作業でも、皆様の多大なご支援を頂きながら、港湾予算は対前年度比101%と必ずしも満足な結果とはなりませんでしたが、しかし、御前崎港の-14m岸壁や下田港の新構造防波堤の着工に目途がつきました。ご尽力下さった皆様に改めてお礼申しあげます。

本年も苦しい状態は続くと思いますが、四面環海の我が国にあって港湾整備の重要性はいささかも変わりはないと確信しています。関係者の理解が得られるよう、従前にも増して努力をしていきたいと考えています。

ところで、港湾と海岸の5カ年計画は、亥年の本年が最終年となります。従って、本年は次の新しい5カ年計画に向けて知恵を絞る年となります。清水港の港湾計画も今年が正念場となりそうです。清水港に限らず、県下の各港湾が、この激動の時代を抜けて、明るい次の12年に活き活きと光を放つ、そんな新計画が策定されるよう努力をし、また期待して、年頭の挨拶と致します。

五建事務次長異動



第五港湾建設局事務次長が12月1日付で異動になり、望月康弘次長から新しく高見正明次長が大臣官房会計課補佐官から就任しました。
 なお、望月前次長は、大臣官房文書課事務改善管理官に転任されました。

清水港 港湾文化発掘活用調査

第三弾

清水港工事事務所は、過去2カ年で清水港の歴史、イベント、祭、観光、夜景等を中心に港湾文化を発掘し、その活用方策と港の果たす役割、課題等について検討を行い、その調査成果をベイズ、ナイトビューベイズとして刊行し、地域で予想を上回る評価を得ることができました。

一九九九年に開港百年を迎える清水港は国際貿易港として長い歴史を有し、特に清水地域は港とともに発展してきました。このため市内には歴史的文化的施設も数多く見ら

れます。

今回は、昨年度に引き続きの調査でありますが、「港と外国」をキーワードとして国際化をテーマに、清水港の活性化についての調査を清水港湾博物館（フェルケール博物館）に委託しました。

具体的な調査項目は次のとおりです。

- ① 清水港及びその周辺で「外国」をキーワードとして、建築物、伝承、言葉、食べ物等市民生活に身近な文化要素を整理する。
- ② 清水港及び清水市との友好港、姉妹都市の締結状況等国際交流の現状について整理する。
- ③ 他港（長崎、神戸、横浜等）での外国との関わりと、①、②で得られた文化要素、交流状況との

- ④ 比較検討を行う。地域の国際化推進のための清水港の役割と課題について検討する。

本調査も前回と同じく東海大学海洋学部長酒匂敏次教授を座長に12月13日各界の有識者10名による第一回委員会がマリニビルで開催されました。今後、提案された意見、収集資料をもとに3月末までに親しみ易い小冊子にまとめる予定です。
 （柴田鋼三）

静岡県の港シリーズ(12)

熱海港

熱海市

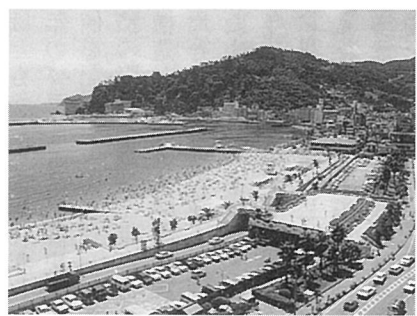
熱海市は静岡県の最南端、伊豆半島東側の付け根にあります。海の碧き、山の緑に囲まれた観光温泉都市です。

熱海温泉記「仁賢天皇の御代（約一五〇〇年前）海中に温泉が湧き、海が熱くなったので、『あつうみが崎』とい

いならされた。」とある。明治22年、泉、伊豆、熱海が合併して村制、同24年町制を施行した。昭和12年多賀村を合併して市制を施行、同32年には網代町と合併し、現在の市域となった。人口は4万6千人強。

産業に関しては、そのほとんどが観光産業に関係してお

り、源泉数513本、毎分約2万リットルの豊富な湯量を誇る温泉を中心に発展している。



熱海港

沿革

熱海港は漁船の船溜として発展してきたが、背後に全国屈指の温泉都市を抱えていることや、伊豆半島、伊豆諸島の開発に伴う熱海・伊豆大島の初島間等の定期航路の開設などにより、伊豆東海岸における物流の拠点並びに観光港としての使命を担うようになり、年間の船舶乗降人員は80万人以上に達している。

また、近年船舶の大型化や想定される大規模地震時の緊急輸送路の確保を目的として、第六次港湾整備5カ年計画（S56～60）より外港地区への大型係留施設（7.5m岸壁）の整備に着工、昭和61年に完成している。

現有施設は、4.5m未満の岸壁278m、5.0m岸壁3バース227

m、7.5m岸壁1バース155mとなっており、平成5年における取扱貨物量は、砂利、砂、石材等の移入を中心に12万トンを超えている。

海岸については、海岸環境整備事業による人工海浜の造成がなされ、平成元年に400mの「熱海サンビーチ」が完成した。熱海の新しい観光の核として注目を浴び、毎年20万人以上の海水浴客が訪れている。

熱海CR計画

熱海コースタルリゾートプロジェクトは昭和62～63年度に国、県、市が計画を策定し、「ルネッサンス熱海」として海岸の開発が進められている。具体的には渚地区において、平成12年度を目標年次として360mの海岸線にボードウォークや遊歩道を中心とする浜辺の整備が行われている。



ルネッサンス熱海



第1回委員会

多賀地区では、美しい砂浜を造るため突堤や護岸の整備が行われ、イベント広場や眺望広場が計画されており、完成が待たれる。

梅まつり

熱海と言えば金色夜叉でなじみの「お宮の松」がよく知られていますが、「梅」も負けてはいません。



梅まつり

JR来宮駅の近くに熱海梅園があり、1月15日から3月上旬にわたり「梅まつり」が行われます。3万3千㎡ある園内には860本にも及ぶ早咲きの梅が植えられており、樹齢100年を越す老木も多く見事な花を咲かせ、1月半ばから見ごろとなり、陽春の光をうけて多くの観光客でにぎわいます。梅まつりの期間中には、野点観梅句展等情緒たっぷりの催しのほか、恒例の「ミス熱海梅の女王コンテスト」が咲きほころぶ梅に花を添えます。

(W・F窓口)

御前崎港 土質調査始まる

平成17年度を目標年次とする御前崎港の新しい港湾計画が昨年8月5日国の港湾審議会にて承認を得た。これに伴い清水港工事事務所では、女岩地区の防波堤(西)と岸壁(-14m)の事業に着手する運びとなった。

防波堤(西)はこれまで東西方向に452mが完成しており、従来の計画ではあと348m建設した後北西に延ばす計画であったが、今回の改訂で470mの地点から北西に1800m建設する計画に変更された。

これは岸壁(-14m)前面の泊地スペースを確保するためのもので、来年度の本工事着手に向け今年度は土質調査を行い、その結果をもとに基本設計に入る予定である。

水深14mの岸壁は、5万ト



岸壁 - 14mの土質調査状況

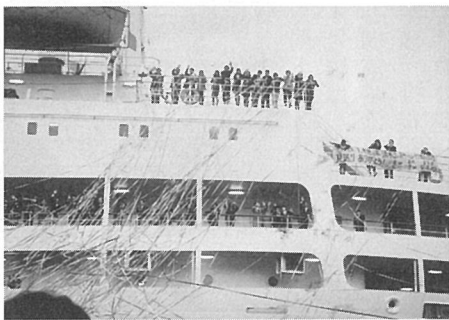
ンクラスの船舶が接岸できる多目的外貿バースとして計画されたもので、水深は県内では最大規模となるものである。今回の土質調査は防波堤(西)2カ所、岸壁(-14m)11カ所の計13カ所で、足場となる鋼製櫓を海上に設置し、櫓上にボーリング機材を置き海底の土質を調査するものである。

調査は12月末に現地ボーリングが完了し、現在、室内土質試験等を実施中である。

御前崎工場 村松佳春

第27回 静岡青年の船体験記

佐藤 友紀



見送り (清水港)

「青年の船」とは、昭和43年に当時アメリカ領であった沖繩へ行こう、という青年の熱い想いから始まったもので、

新たな友や仲間を求めて、またマンネリ化した毎日を変えたい等いろいろな目的をもった青年達(高校生から30歳の人まで)が約400名集まって、海外で研修を行うものです。

コースは香港、中国(浙江省)、タイの3つです。私は、中国に返還される前に行きたかったのが香港に決めました。費用は基本料金が約15万円、その外にコース別に現地研修費用(上は約10万円のタイ、下は香港の約3万円)が必要ですが、各市町村から補助金が出ます。清水市からは2万円でした。

日程は12月27日から1月6日までの11日間、27日に新さくら丸にて清水港を出航、31日の朝に香港到着。タイ、浙江省コースはそこから飛行機で移動して、研修先から2日の夜に戻り出航、6日に帰国しました。往復の船中では、研修や講義等スケジュールがびっしりで自由な時間は就寝前の2、3時間程度ですが、研修のプログラムのひとつであるグループディスカッションでは、自分や相手の本当の気持ちを知ることができるし、クラブ活動、もちつき大会、パーティーなどの楽しいイベントもちゃんとあります。香港の現地研修では、地元の方と交流をしました。



船内での香港女性による民族舞踊

1日目(31日)は船に彼らを招待して、食事をしたり、文化交流ということだけでん玉やあやとりを一緒にしたり、お華やお茶、そば打ち等を披露しました。

そしてその夜の12:00、私は初めての海外旅行で、初めて海外での新年を迎えることとなりました。一九九五年になった瞬間、船は汽笛を鳴らし、人は花火を打ち上げ、「ハッピーニューイヤー!」で祝う、いつもと違った新年でした。

2日目(元旦)は現地のユースセンターで中国の獅子舞を見せてもらったり、一緒にダンスやゲームをして交流を行った後、ホームビジットということで香港青年の家におじゃましていろんな事を語り合い、より交流を深めることができました。(次号へ続く)



船内パーティー（佐藤左から3人目）

工場だより

— 下田工場 —

春の先取り

— 水仙まつり —



下田市須崎半島の爪木崎で、毎年一二月二〇日から翌年一月末日まで開催される「水仙まつり」は今回で29回目を迎えました。約3万坪の群落地に、約3

百万本の野水仙が甘い香りをただよわせながら潮風に揺れる様は、一足早い春を感じさせてくれます。期間中の日曜・休日には多彩なイベントも繰り広げられ、訪れる人々を楽しませてくれます。

須崎名物「いけんだ味噌煮」を味わいながら、冬の下田も楽しさ一杯です。 小島沙織

御前崎工場

みなとトンネル貫通

御前崎町と相良町間において、平成3年から港湾整備事業（県施行）により工事が進められている臨港道路4号線の『みなとトンネル』がこのほど貫通し、12月15日に貫通式が行なわれました。貫通式には、静岡県・地元御前崎町・相良町・工事関係者ら約百五十人が出席、当事務所からも高松所長、葉原工場長が出席し貫通を祝いました。

みなとトンネルは、上下線二本のトンネルからなる通称“めがねトンネル”で、延長は373メートル。片側二車線の上下四車線で、歩道も整備され、相良側入口には、両町のシンボルの御前崎灯台、ボードセーリング、相良風（たこ）をモチーフにした壁画も埋め込まれています。



同トンネルを含む臨港道路4号線は、相良町の国道150号と御前崎港を結ぶ延長230メートル。今後総合流通拠点として整備の進む御前崎港へのアクセス道路として、平成7年度完成を目指し、整備される予定です。 長澤隆夫

清水の史跡⑤

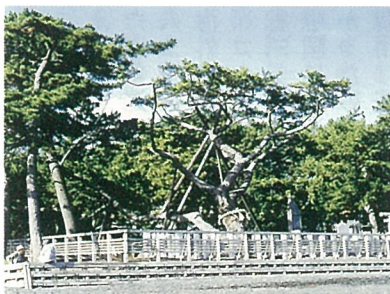
羽衣伝説と羽衣の松

清水港は三保半島を天然の防波堤として古くから栄えた港です。その三保半島を舞台とした羽衣伝説は、広く世に知られています。

羽衣伝説は白鳥説話として世界中に広く分布し、白鳥の飛来する地域では白鳥、その他の地域では天人となつています。日本では主なもの13種あり、天人女房型の話が多くあります。

三保の羽衣伝説は、室町時代世阿弥が三保松原を舞台に謡曲「羽衣」を書き、これに基づいて昭和3年小学校の国語読本に「はごろも」と題して記載されたことによるものです。

「早風の、三保の浦曲を漕ぐ舟の……」で始まるそのストーリーは、景色を眺めていると、松の枝に美しい衣がかかっていたので、持つて帰ろうとする。そこへ天人が来て、それは天人の羽衣だから取られたら天に帰れないので返してくれと嘆願する。白竜はそれを聞いていよいよ喜び、国の宝にするといって返さない。天人は羽衣がなくては天へ帰ることができないので、しおしおと嘆く。白竜はあわれに感じて、天人の舞楽を見せて下されば衣をお返ししようという。天人は喜んで、寛裳羽衣の曲



羽衣の松

管内の動き

1月

4日 御用始式

〃 新年名刺交換会（清水港港湾関係者）

6日 新年賀詞交歓会（清水商工会議所）

11日 清水港港湾機関長会議

19日 静岡空港国際化懇談会

26日 第2回清水港港湾文化発掘活用調査委員会

2月

8日 第2回静岡県TSL導入調査WG

9日 所長次長会議 「名古屋」

10日 下田港防波堤景観設計関連調査委員会

13日 業務改善研修

3月

8日 第2回田子の浦港景観計画委員会

「富士」